

第4回防災部会での主な指摘と対応

第4回防災部会での主な指摘と対応

| | 指 摘 事 項 | 対 応 |
|---|--|---|
| 港 湾 の 津 波 か ら の 防 護 | <p>「<u>避難場所をつくる</u>」という努力もしなければならない。堅牢で高い場所を確保するという視点が必要。</p> | <p>「Ⅲ. 1. (1)②港湾における産業・物流機能の防護」に既存のビル等の利活用の可能性を検討するなどして、適切な形式・規模の避難施設を設ける旨記述。</p> |
| | <p>素早く避難できる人もいれば、できない人もおり、避難の対応時間に差がでる。<u>対応速度を考慮した避難プロセスを考える必要がある。</u></p> | <p>「Ⅲ. 1. (1)②港湾における産業・物流機能の防護」に時間的な状況に応じてより安全な避難施設の利用が可能となるような、避難施設のネットワーク化のための方策の検討及び避難に係るガイドラインを策定し、対策の具体化を進める旨記述。</p> |
| | <p><u>防波堤は海岸保全施設ではないので、人々を守るということと基本的には関係ない。</u> けれども、堤外地、海岸保全施設の海側にいても人命だけは何としても守るということを決めており、堤外地では、海側にある施設は防波堤しかない。 防波堤は浸水深・流速を減らすことができる機能を持ち得るので、全体としての防災を考えると防波堤が人命を守る機能も持つよう考えられるようにしていただきたい。</p> | <p>「Ⅲ. 1. (1)②港湾における産業・物流機能の防護」に防波堤について、浸水による被害を最小化し早期復旧のため、津波からの減災効果を期待することも必要となる旨記述。</p> |
| 港 湾 の 災 害 対 応 力 の 強 化 | <p>新しい海岸保全施設は被害が小さかったように見受けられる。<u>整備建設年度も含めてデータベース化し、施設の効率的な維持・更新を行うこと</u>で発生頻度の高い津波に耐えられるような構造物にするのが大事ではないか。</p> | <p>「Ⅱ. 2. (1)港湾BCPの策定による物流機能の早期回復」に施設に関する構造や整備・補修履歴等のデータベースの充実について記述。</p> |
| | <p>「企業のBCPの策定を促進すると同時に、官民連携のもとで港湾のBCPを策定する」というのは重要な頭出し。 1つの企業のBCPでは<u>限界がある</u>。港湾BCPは、利害が対立する主体の間でどのようにコンセンサスを取り、また仕組みをつくっていくかという非常に大きな問題。港湾BCPが<u>一歩進めていくことが必要</u>。</p> | <p>『Ⅱ. 2. 港湾BCPに基づく港湾の災害対応力の強化』に効果的かつ迅速な港湾の応急復旧により早期に港湾物流機能を回復するため、国・地域・港湾レベルにおける港湾BCPの策定が必要となる旨明記。</p> |

| | 指 摘 事 項 | 対 応 |
|-------------|--|--|
| 港湾の災害対応力の強化 | 「 <u>粘り強い構造</u> 」について、補修・新設の際に発生頻度の高い津波を超えた際、どの程度の手当てが考えられるか検討するプロセスを入れるようマニュアル等々について改定していく必要がある。 | 「Ⅱ. 2. (2)港湾施設の耐震性・耐津波性の確保」に港湾の施設の技術上の基準の改正や費用対効果を検討しつつ、防波堤を粘り強い構造とする補強対策を検討する旨記述。 |
| | 「 <u>粘り強い構造物</u> 」について、基準をつくる際、わかりやすい解説書も提示し、民間サイドの開発マインドを促すような形にしていきたい。 | 防波堤の「粘り強い構造」に対する具体的考え方や実験結果等から得られた最新の知見について、出来る限り分かりやすく取りまとめ、その結果について適宜公表し、防波堤の粘り強い構造について、今後の技術開発がさらに促進されるようにしたい。 |
| | 「 <u>通信手段を確保する、資機材を確保する</u> 」とあるが、それに加え「 <u>エネルギーを確保する</u> 」という視点も重要。特に、 <u>非常時に電源をどう確保するかを特出ししても良い</u> と考える。 | 「Ⅲ. 1. (2)水門・陸閘等の施設の管理・運用体制の構築」に水門・陸閘等の自動化・遠隔操作化の促進において電源の喪失対策を適切に講じる旨、また、「Ⅱ. 2. (1)港湾BCPの策定による物流機能の早期回復」に停電時における情報連絡手段等の電源の確保策について記述。 |
| | 経済活動が盛んで人口が多いのは、閉鎖性内湾が多く、津波は直接入ってくるわけではない。仮に50センチ、1メートル嵩上げすることによって最大クラスの津波に対しても耐えられるような防護レベルにすることが可能であれば、必要に応じて整備を検討すべき。 <u>三大湾を考えると、少し嵩上げすれば百年確率のものが千年確率まで延びる</u> ということであれば、十分経済的にもペイするのではないか。 | 「Ⅱ. 1. (1)津波の規模、発生頻度に応じた防護目標の明確化」に最大クラスの津波について、地域の実情に合わせて、ハードによる減災効果を見込みつつ、土地利用や避難対策と一体となった対応を進めることが必要である旨記述。 |
| | 津波によるコンテナの流出や、船舶が陸上に乗り上げるということがあったので、 <u>防護柵をつくって漂流物が陸上に入らないように</u> することも、今回の津波で得た教訓の1つ。 | 「Ⅰ. 1. (1)津波による被害」に東日本大震災における漂流物による被害状況を明記。 |

第4回防災部会での主な指摘と対応

| | 指 摘 事 項 | 対 応 |
|-------------------------------------|--|---|
| 災害に強い海上輸送 ネットワークの形成に 向けた対策の推進 | 船舶の避難の話は、津波の高さではなくて流速が大きなファクターなので、「港内の流速」といった言葉を加えてはどうか。 | 「Ⅲ. 3. (2) 湾域において船舶航行の安全性を確保する対策の推進」に船舶の避難ルール等の策定等において湾内の流速等を考慮する旨記述。 |
| | 災害時のバックアップ港湾の選択と集中を考える必要もある。 | 「Ⅱ. 3. (1) 港湾BCPの連携による海上輸送ネットワークの維持」に全国的な視点から複数の港湾BCPを連携させ、バックアップ機能を有する港湾、各港湾間の連携及び役割分担等を定める必要性を記述。 |